



# 子育てを考える

## 最終回 たくさんの生活体験と失敗を気にしない意欲で確かな自立を

社会福祉法人未知の会 花ノ宮保育園 園長 野町 文枝

子育ての最終ゴールは親離れ、子離れの儀式をうまく迎えられるかです。

「ぼくはぼくの人生を自分で歩いて行くんだからついて来ないで」という反抗期がやってきます。自分の地図をもって自分の人生に向かっての旅立ちで、大切な自立です。

親が子どもにずっとついていってはいけません。子どもがどんなに転びそうになってもただじっと見守り、失敗した時に黙って気持ちを癒してあげるだけになります。自分で決めて、結果は自分で引き受けていく。「子ども自身に生きさせよ」です。

この場合、自立とは“自分で何でもできるようになること”ではなく、困った時に「助けて」と言え、まわりの助けを借りながら自分の問題を解決していく力です。

前回までで述べた人への信頼感と自分のありのままを好きになれる自己肯定感が育っていないと、このハードルは乗り越えられません。

そして今回は、自立に必要なたくさんの生活体験について考えたいと思います。

体験を通して得た知識は確かです。物事をイメージする力がつき、小学校・中学校の学齢期に入ってから学ぶ意欲の基礎になります。なによりも脳のシナプスの発達を促し、自信と誇りにつながります。テレビやゲームで過ごしている今の子どもたちの環境に心痛みます。いっぱい体を使って身体機能と脳を鍛えておきたいものです。

私は日々子どもたちに、人に喜ばれ、人のお役に立てるようにと伝えています。人に頼られ必要とされている存在になることは生きる力の源になります。そんな力は日々の暮らしの中で

養われます。

お掃除、洗濯、お料理、土いじりなど大人のすることをよく見ていてまねようとしています。

一見困ったいたずらに見えるかもわかりませんが、子ども

が興味を示し、やりたがるのが今、子どもの発達に効果があり必要な経験と思ってください。

「汚す、危ない、失敗する、あとかたづけが大変」では、いづれやってくる人生の大きな壁に立ち向かう力は養えません。

ちなみに、私の園では5歳児さんが毎日交代で自分たちのご飯を炊くことにしています。お米をはかること、洗うこと、水加減などいろいろな経験ができます。水を測り間違っても失敗することもあります。経験を積むたびに上手になっていきます。いっぱいお手伝いをして、「ありがとう」と喜んでもらい、心と体で覚えた体験こそ本当の知恵と力になっていくようです。

最後に、危険を伴う症状を見落としてはいけません。多くの場合、子どもは熱を出すたびに自然治癒力(免疫力)を高め、苦しみに耐える力、がまんする力を身につけていくのです。そして小さな傷を作って多少の痛い思いをしながら、身体能力を高め、新しいことに挑戦し、時に失敗しながら、挫折を乗り越える力を蓄えていると思えば気持ちも楽になるのではないでしょうか。いっぱい転んで(失敗して)いっぱい起き上がる練習をしておくことが心を強くする方法です。

心むむ子どもをこれ以上に増やさない社会を目指し、子どもたちが人も自分も大事にしながらいきいきと自分の人生を歩んでいければ、きっと未来は明るいと思います。

子どもたちに希望を託し、みんなで見守っていききたいものです。



### 野町 文枝 (のまち ふみえ)

1966年 大学卒業後、東京都にて小学校に勤務

1969年 高松に移り住み、2年間の幼稚園勤務

1975年 春日保育園勤務

1992年より、自然界の汚染は食物連鎖で子どもの体を蝕んでいくことを知り、給食に安全な食材の提供と、EM(有用微生物群)による環境浄化活動に取り組む。

1996年 地域子育て支援センター事業開始

2010年 花ノ宮保育園勤務

